



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」73号
Issue Date	1987-10-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66537
Type	journal
File Information	yuin73.pdf





目 次

○学術情報検索はどこまで進むか 薬学部助教授 三浦敏明…………… 1	○会 議……………11
○University College Hospital Medical School Libraryを訪ねて 医学部 佐々木光子…………… 2	○研 修……………14
○資料紹介 昭和61年度特別図書購入費で購入した図書…………… 6	昭和62年度大学図書館職員長期研修 に参加して(諏訪田義美)……………14
○北の古典籍① 秋月俊幸…………… 8	○昭和61年度各種統計……………16
○学術情報センターの情報検索サービス の開始について……………10	○電算化ニュース……………21
	○受贈図書……………24
	○人事往来……………25
	○訃 報……………25

学術情報検索はどこまで進むか

薬学部助教授 三 浦 敏 明

コンピュータの端末を電話線に接続し、キーボードをたたくと、たちどころに目的の情報がディスプレイに現われてくる。研究室でのこんな光景も最近ではめずらしいものではなくなってきたが、私が学生だった20年ほど前の頃には、予想もしなかった情報検索法の進歩である。

卒業研究をはじめるとあたり、私に与えられた最初の課題はある化合物の合成であった。化学系の多くの学生がそうであったように、私の研究生活も Chemical Abstracts や Beilstein による文献検索からスタートした。生まれつき物臭さな私にとって、この検索作業はいつも単調に感じられたし、不慣れなこともあって、必ずしも目的に適した情報を得ていなかったように思う。それでも、当時すでに何百万種類も存在していた化合物の中から、目的とする化合物に関する情報が比較的容易に得られる、これら二次情報誌の有用性にはおおいに感心したものである。時には、適当な文献になかなかゆきあたらずにいらいらしたり、あるいは、私の研究のテーマと同じタイトルを Chemical Abstracts 中に見い出して驚愕した後、それが私自身の研究であることを知って安堵したりもしたが、今日においても、これら二次情報誌が私の情報検索の中心であることには変りがない。

しかしながら、最近の科学技術の発展は目覚しく、それに伴って、学術情報も質的・量的に拡大し続けている。従って、今後は、研究者にとって必要な情報を二次情報誌のみから効果的に入手することは増々困難になろう。私自身は2年前から新しい分野の研究をはじめたこともあり、その研究領域で既に蓄積されている情報や間断なく生み出されている情報の中から、必

要な情報を確実に入手し得ているか？ 不安に感じることも少なくない。

昨年4月、大学等における研究活動を支援することを目的に、国立大学共同利用機関・学術情報センターが創立され、本年より、大学等の研究者、図書館を対象に情報検索サービスが開始された。北大においても、北大図書館オンライン・システムづくりが着々と進められている。御存知のように、昨年から北大にある図書・雑誌の所在情報が図書館や各部局の図書室に配置されている端末を利用して入手できるようになった。そのためのデータベース作りも図書館職員の努力により順調に進んでいる様子である。又、大学キャンパス内の総合的通信回路網としての「北大キャンパス LAN (Local Area Network)」の検討も行われている。本年度の図書館委員に命ぜられた一人として、今後の発展をおおいに期待している。近い将来、北大のあちこちの研究室でも、冒頭で紹介したような光景がみられることになる。

化学の分野では、世界中の多数の民間あるいは公的機関がデータベースを作成しており、オンラインサービスを行っている。すでに、7～8百万種類におよぶ化合物が登録されているデータベースもある。情報検索システムも急速に進歩しているので、これらのシステムを利用することにより、現在でも、部分的にはあるが、コンピュータが化学構造を決定してくれるし、目的の化合物の合成法などを教えてくれる。近い将来は、望みの性質を有する物質の設計もしてくれるであろう。しかし、科学的に未解決な課題にコンピュータは答えてくれない。例えば、いくら情報科学が進歩したとしても、副作用のない抗癌剤の作り方をコンピュータは教えてくれない。結局のところ、研究者がコンピュータを駆使して情報検索をするのは、人間にしか解決できない課題に対して十分な研究時間を確保するためである。そのような意味から、情報検索の今後の進歩を期待したい。

それにつけても、机の上に山積になっている未読の文献コピーを前にして、コピーをすれば、その文献を読んだような気になってしまう私自身の性格を早急に改めなければならないと思う、この頃である。

Library

Library

University College Hospital Medical School library を訪ねて

——ロンドンの図書館視記歩記——

医学部図書閲覧掛 佐々木光子

「あの角を右に曲ると University Street, 通りに面してすぐ右手に医学部玄関が見えますよ」と病院駐車場のおじさんが笑顔で教えてくれた。この夏寒い北ヨーロッパ……と報道された割には暑い毎日が続くロンドンの街は、それでもタツプリの緑に被われて爽やかである。

ロンドン大学構内の医学部付近でまず目に入ったのが、University College Hospital と正面玄関上に大きく表示された赤レンガと石造りの古い病院。どうも最新医学といかにも古めかしい煤けた建物とは不釣合の感を拭いえないが、そういえばロンドンの街中“修理”はされていても“新築”にはとんとお目にかからない。いよいよ目差す図書館は目の前であるが、ここで少しロンドン大学について触れておきたい。

ロンドン大学は（数年来統合改組中）15の非医歯系スクール（カレッジ）と13の医歯系スクールと13以上の研究所から構成されるイギリスで最大規模の連合大学で、全学生の30％は医学生という非常に医歯系比率の高い大学である。1983年のイギリス国内26の医学部への新入生総数は約3900人、一校平均100人（多くて200人）ということから推察しても規模の大きさを窺うことができる。

（表1参照）

イギリスの医学教育は医学評議会（General Medical Council）の最低5年以上という勧告により、ロンドン大学は5年制を採っているが、オクスフォード、ケンブリッジ等古い大学では6年制を継続している。日本との比較では同じ18歳で入学して後、いわゆる一般教養教育なしに直ちに Pre-Clinical Education（基礎医学）を受けるシステムになっていることや、全体として医学教育を理論から実際へ・病院から地域社会へ・連続性ある生涯教育へという位置付けのもとに推進しようという動向が更に強められていることなどがあげられよう。出発前に今春迄スクールの1つ、St. George's Hospital Medical School に留学してられた方に聞いてみたが所属したスクール以外の実態はつかめないとのことであった。

私が訪ねたのは宿泊したロンドン大学 Hughes Parry Hall に近い本部キャンパス内の表記図書館であるが、ここはロンドン大学のスクールの1つである University College London（非医歯系・医歯系混成）の中の School of Medicine の図書館ということになる。Teaching Hospital が、Univ. Coll. Hosp. なので表記名が通っているが、同時に Univ. Coll. London, Clinical Sciences Library という名前も役割も担っている。医歯系学生数は、1983—84年、Clin. Scis 531人 Med. Scis 314人である。

学部玄関に入って左手、建物地階の1角を図書館が占めている。渋い茶に光る木製ドアの上には大きく Clinical Sciences Library の文字。左右に In と Out の表示。ふと見ると入口横の掲示板に、利用案内や学部事務からの連絡等に混って右上の掲示があるのに気付いた。（写真）Security System が作動しているので、Heart Pacemaker をつけた人は申し出るようにとの注意書だが、この様な掲示に出合ったのは初めてであった。（＊帰札後循環器内科の先生にお伺いしたところ、Pacemaker は強い磁場や高電圧により影響を受けることがあるが、今現在は性能もよくなり、Book Detection など図書館の Security System で心配する必要はまずないとのこと）

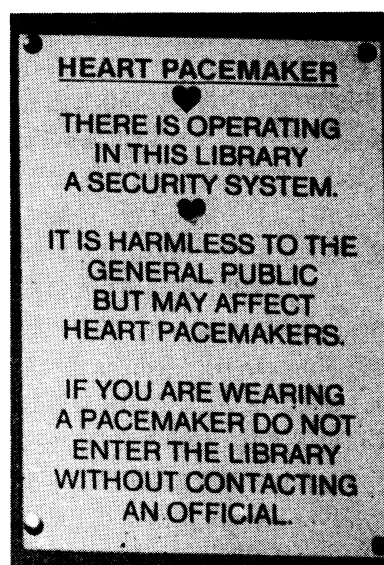


表1

	Student Numbers 1983—84			
	Full-Time	Part-Time		
Univ.Oxford	12.424	—	（うち Med. 675）	（Inc.Postgrad.）
Univ.Cambridge	11.598	1.187	（うち Med. 1.175）	（ ” ）
Univ.London	46.514	8.352	?	（ ” ）

（Commonwealth Universities Yearbook. 1985. v. 1）

さて、ドアを押すと目の前のカウンターでにこやかに迎えて下さったのがパステルカラーのよく似合う御婦人だったので内心ホッとし、持参した我医学部図書館長の紹介状を呈示し見学と写真の許可を得たい旨申し出る。Senior Library-Assistant: Janet Gauld 嬢は紹介状に目を通すと机から一枚の Visitor's Sheet を取出し、私の名前、住所、来館目的等の記入を求めた後「夏休みで利用者が少いから」と先に立って案内して下さいました。左手が事務室、右手はカウンターからコピー室（3台）を経て閲覧室へと通じている。閲覧室へ一歩足を踏み入れた瞬間、壁一枚に天井高く積み上げられた図書と室内の静かなヒンヤリとした雰囲気思わず足を止めた。小じんまりと使い慣れた書斎のように長い歴史を感じさせる落ち着いたムード。あちこちに肖像画や胸像が飾られ、聞けば病院も含めて建物は1907年のものだという。改めて見直すと入口壁側から Index Medicus 等利用頻度の高い二次資料がまず並び、続けて参考図書が並んでおり、側にブラウジング用新着雑誌架が間隔をおいて並べられ椅子と机が配置されている。その奥に単行書棚、1969年以前分の Card Box と1970年以降分のフィッシュ及びフィッシュリーダー、そして部屋を取囲んでいる壁面書棚は通常の高さ部分には1966年以降、壁の中途に取付けられた Picture Rail より上には1965年以前の雑誌・単行本が利用頻度を考慮して配架されている。当然段梯子の用意もある。

閲覧時間は月～金曜日は午前9時～午後9時（夏休み7時）、土曜日は9時半～12時半（夏休み休館）、貸出期間は単行書10冊迄8週間（資料の種類により Overnight や1週間に限定）雑誌は閲覧のみだがコピー室で自由にコピーできる。単行書は我国でも医系図書館ではポピュラーな NLM (The National Library of Medicine) 分類で整理されており、1969年以前分はカードで Author/title, Subject sequences から検索でき、1970年以降はマイクロフィッシュで、Author/title, Subject headings, Classified sequences から検索できる。又同様にマイクロフィッシュで、University of London Union Catalogue, Science Reference Library Catalogue, BBIP, BIP, Camden Public Libraries Catalogue を利用できる。（2つ目は British Library の分館、おしまいの Camden——は前日訪ねた Swiss Cottage Library のことで思いがけず再びその名前に出合い感激！）

この他、On-line 情報検索も勿論利用でき、希望者は Application form に申込めばよいのだが、“よりよい結果を得るためには検索に立合うのが Best である”校費の場合上限額を確認してくるよう“等丁寧な注意がされていた。実際の検索はこの責任者である Subject Specialist: G. R. Peacock 氏が行い、利用者は主に研究者と医師、利用 DB の大半は Medline とのことで、ちなみに料金は50p/m（毎分50ペンス）、4 p/ref. Online（オンライン1件4ペンス）8 p/ref. Offline（オフライン1件8ペンス）であった。

この蔵書総数は3万冊（含製本雑誌）受入雑誌は250タイトルであり、職員は前述の2名のみである。夜間開館や整理業務はどのように工夫しているのか、ILL の実際はどんなかとお聞きしたいことが沢山あつ



Clinical Sciences Library の閲覧室

たが、既に10数人の閲覧者がおり次々来室者が続くので、私は、写真を撮らせてもらうと早々に退出した。

ロンドン大学聖トマス病院医科大学図書館を利用された医学部解剖第二講座佐々木助教授のレポート(北大時報 374号 1985. 5)でも指摘されておられるが、キャンパス内の他館利用は自由とはいえ、雑誌タイトル数の少なさとそれとの関連でILLの実態は気になるところである。一方、マイクロフィッシュ形態の目録がこの様に有効に利用されているのを初めて目にした。北大附属図書館参考室のNational Union Catalogueなど使い慣れると違和感はないので、この様に多種図書館間で互に交換し合ったりする場合は特に便利であろう。いずれにせよ、再び暑い街路を歩きながら、私の気持ちはどこか懐しい場所を訪ねた後の様な温かさに満ちていた。

この訪問の前々日、17日にロンドンから南へ汽車で1時間のブライトンで開催されていたIFLA 1987(世界図書館大会 Int. Fed. Lib. Assoc., Brighton, 16-21 Aug. 1987)に出かけてみた。余談だがピクトリア駅から1時間経っても窓外は野山。もしかと思って前座席の老紳士に尋ねると案の定、汽車は途中で二方向に別れたこと、でも先の駅で海岸沿いの線に乗換えれば大丈夫だと親切に教えてくれた。時刻表を見ると利用便の上に小さなFのマーク。又別にRのマークにも気付いて欄外の注を見ると前部(F)後部(R)のみの表示と分った。乗物でアナウンスが一切無いのも静かで良いけれど、こんな時には恨めしい。

1時間遅れで到着、急ぎ参加登録を済ませ開会式場 Brighton Centre へ。Day Visitor は1日20ポンド(5,000円)。午後の分科会は

"The Impact of electronic publishing on library collections and services : an American view" "a British view" を選んだ。タイムリーな話題なので300程の席に立つ人も出る盛況振りであった。事務局・分科会場となったメトロポールホテルにはExhibition会場も設けられており、OECDやECコーナー、OCLC Europe、各書店などの並ぶ中で、広々とStandsを占拠したThe British Libraryが一際目を引いていた。1753年創立以来集積されてきた資料はいうまでもないことだが、会場では私達も日頃利用しているDocument Supply Centreを窓口とするCopies, Lendingサービスや、加えてOnlineによる書誌情報サービス(BLAISE-LINE)、UK MEDLERS Centreとしての役割など全体として"世界に開かれた情報センターBL"のイメージを強くアピールしていた。BLのあるBritish Museumには2日に亘って通わせていただいた。

もう1つ、ロンドンの街では随所で公共



Swiss Cottage Library のChildrens Library
ベビーカーもOK、おもちゃは袋単位で貸出す

図書館を見かける。バスに乗っていると通りに面したお店の後半分が Public Library だったり、チャリング・クロス84番地（ヘレーン・ハンフ編著・講談社1980）を捜してその古本屋街に出かければ通りに大きな矢印の看板が二本、Lending Lib., Reference Lib. と表示されて直角に突っ立っていたり、トラファルガー広場横にも、宿舎近くにもと枚挙にいとまがない。その1つ、先に触れた Camden Public Library を18日訪ねた。IFLA の London Visits Day : Library Tours の公共図書館のリスト中に見つけた Swiss Cottage Library (inc. Toy Library) がそれで、Camden 区内の図書館・情報センターとして幅広い活動の拠点となっている。お目当てのおもちゃ図書館は、館内の子供図書館の中にある通常5歳迄（イギリスの就学前）の乳幼児を対象とする貸出図書館である。子供達に遊びと喜び・発見と興奮の世界を運び、生長や発達をも促す沢山のおもちゃが、人生で初めて出会う図書館からの贈物としてズラリ勢ぞろいしているのである。それも選び抜かれたものが。登録した子は同時に本を4冊、レコードかカセットを1個、それにおもちゃを1個、4週間期限で借用できる。……ととりとめなくどこまでも続きそうなので、ここでも紹介状が必須であったことを書き添えて締めくくりたいと思う。

最後に、宿泊した Hughes Parry Hall は、13階建の学生寮で夏休み中は学生を追出して宿泊施設として運用している。Bed & Breakfast で3,300円。Hall の由来については、横尾莊英著「ヨーロッパ大学都市への旅」で読んだばかり。毎晩7時から玄関 Hall に開店の The Cheapest Bar in London にその伝統健在といえようか。

以上、私の駆歩記は、少くとも相手館に御迷惑をかけてはいけな心しなごらの短い訪問で、あらかじめこの稿の予定もなかったので帰札してみると紹介に足る資料も持ち帰ってはいない。多少の感違いや的はずれについてはどうぞ御容謝下さいますように。

資料紹介

昭和61年度 特別図書購入費で購入した図書

The Indian Historical Quarterly. Vol. 1-39(1925-1963) Reprint ed.(1985)

芸術、建築学、叙事詩とプラナー、言語学、法学、政治学等の論文をおさめるインド研究誌。

Библиотека для Чтения. 1834-1865.

(読書之庫) マイクロフィッシュ

ペテルブルグで発行された本誌はロシアのジャーナリズムに確固たる基礎をおいた初の大部の雑誌で、広汎な読者層を引きつけた。プーシキン、ゴーゴリ、レールモントフはじめロシアの文学者たちの作品は言うに及ばず、バルザック、サンドなど諸外国の作家の作品も載せ、当時の文学界に大きな影響を与えた。

石刻史料新編 第三輯 1-40

中国歴代の石刻を全土にわたり収集したもので多くの稀観書を覆刻しており、歴史、考古、人物伝記、文学、地理、宗教、美術等の分野にわたる資料である。

敦煌古籍叙録新編 第1-18冊

敦煌出土古写本の写真と解題・叙跋を集成したもので、歴史、文学、宗教思想、書誌学等の分野にわたる基本資料である。

Službeni List Socijalističke Federativne Republike Jugoslavije. God. 35-39(1979-1983)

(ユーゴスラビア社会主義連邦共和国官報)

ユーゴスラビアの官報。1947-1970はマイクロフィルムで所蔵。1984年以降継続購入中。

Právník. Roč.1-51(1861-1912) (Lack: 3, 5-9, 19)

(法律家)

チェコスロヴァキア科学アカデミー発行の法律専門月刊誌。

Annual Report of the Attorney General of the United States. 1870-1975.

(米国法務長官年次報告書)

合衆国の司法、法律等についての司法長官の研究の報告であり、これを1875年から見ることでよりその当時の合衆国の法律問題を確認することができる。

Francisci Connani ... Commentariorum Juris Civilis Libri x. Tom.1-2 1724.

(フランキスクス・コナーヌス「国法注解」)

フランキスクス・コナーヌスは16世紀フランスの代表的法学者の1人。本書によって現代フランス民法典の体系の基礎がつけられた。全体としてはローマ法に言及するものである。

Statistisches Jahrbuch für das Land Sachsen. 1-51(1873-1935/38)

(ザクセン統計年鑑)

中部ドイツ、ザクセン邦の統計集。

日本人の海外活動に関する歴史的調査 全12冊 (影印本)

日本がかつて統治した朝鮮における日本人の活動を政治・経済・社会・文化の各側面から系統的に記述した貴重な史料。

Declassified Documents Reference System. Retrospective Collections. 1940's-1974.

(アメリカ合衆国戦後国家機密文書コレクション) マイクロフィッシュ

以前は機密文書として扱われていた米国の各種公文書類が、1974年の情報公開法改正により公開されるようになってできた資料集。連邦政府各省庁、国立公文書館、ホワイトハウス図書館などから公開される連邦政府閣議報告、CIA情報、ペンタゴン資料、各省庁の長官報告等が収録されている。

與水實自選著作集 全12巻別巻1

垣内松三、城戸幡太郎に師事し、昭和10年代から戦後の50年代までわが国の小学校、中学校の国語教育をリードしてきた與水實の著作集。

楡 蔭

日本語教育復刻叢書 第1期 日本語 第1-5巻 (1941-1945)

第2期 日本語教授法基本文献 全5巻

1941年以降日本が占領した東南アジア諸国における日本語教育の理念、方法、実態に関する研究と資料。

女子と子供の体育 第1-5巻 (1936-1940) 復刻版

戦前の女子と子供の体育に関する啓蒙誌。

現代保健体育学大系 1-20

保健体育に関する学問分野別の研究入門書。

図説子どもの発達と障害 第1-15巻

乳児の身体発達の研究が驚異的な進展をみせ、超早期診断による障害の発見、早期治療が可能になり、さまざまな訓練・療育法が開発されているが、本書は世界各国でおこなわれている診断法を体系化したものである。

Arbeit und Arbeitsrecht. Jg. 1-36 (1946-1981)

(労働と労働法)

東ドイツで刊行されている社会主義労働、労働法、社会福祉事業に関する雑誌。

北の古典籍

①

附属図書館北方資料室には、北海道・樺太・千島その他の北辺地方に関する江戸時代の写本、木版本、木活字本が、複製本を含めて約3,000点ほど所蔵されている。それらの資料はごく僅かの人々にしか知られていないので、この欄ではそのうちのいくつかを紹介して、いわゆる「蝦夷地資料」の全体を推量するよすがとしたい。

樺太ナヨロの満州語文書

上記の「蝦夷地資料」のなかでもっとも珍らしいものは、「ヤエンコロアイヌ文書」という題簽が付された2巻の軸装の文書である。その中には2通の満州文字の文書のほか、漢文2通、和文9通のそれぞれ時代を異にする原文書が貼付されている。それらはいずれも嘗て樺太西岸ナヨロ（北緯48°付近）のアイヌの長老の家に代々伝えられていたもので、「ヤエンコロアイヌ」というのは旧蔵者の1人の名前である。この文書は戦前は樺太庁図書館に保管されていたが、日本の敗戦直後に或る人が樺太からひ



嘉慶40年(1775)の満州語文書

そかに持帰り、それを北大図書館が購入したものという。

ナヨロ文書のうちもっとも古いのは、清国の三姓(松花江沿岸)の役所が樺太の陶姓^{ハライダ}の氏族長^{ガシヤンダ}と郷長に宛てた満州語の文書で、乾隆40年(1775)の年記があり、「管理三姓地方兵丁副都統印」という漢字と満州文字の角印が押捺されている。この文書は、すでに江戸時代からわが国ではかなり広く知られており、すでに日本語に翻訳されていた。それを最初に見た日本人は、寛政4年(1792)に樺太を調査した最上徳内の一行で、最上はそのときこの文書を写し取り、所蔵者のヤエンコロアイヌにこれを大切に保存するよう書付を残している(和文文書)。

最上と同じく蝦夷地探検家で著名な学者でもあった近藤重蔵は、『辺要分界図考』の中でこの文書について言及し、さらに八王子千人同心の松本胤親は『北海烏舶記』(『通航一覧』巻236所収本)の中でこの満州文書を日本語に翻訳した⁽¹⁾。文化5～6年(1808～9)に樺太およびアムール河下流地方を探検した間宮林蔵も、やはりナヨロにおいてこの文書を書写し(『北蝦夷図説』)、幕府の天文方高橋景保はその逐語的な翻訳を試みている(満鉄大連図書館旧蔵『東轅紀行』付録)。これらの満州文の翻訳は、ロシア使節レザーノフが持参したロシア国書の満文副書および文化10年(1813)のイルクーツク知事トレスキンの松前奉行宛満文書翰の翻訳とともに、わが国における満州語研究の嚆矢となったものである。なお、この満文文書はもう一つの満文文書とともに、明治末期に白鳥庫吉博士により、また近年では本学の池上二良教授(「北方文化研究」第3号)により新たに翻訳されている。それによれば嘉慶21年(1816)の満文文書は、ナヨロのシレトマアイヌが清国に朝貢する際の氏族長としての資格証明書である。ナヨロの氏族長は清国から「楊忠貞」の名を与えられたヨーチイテアイノの子孫で、幕末まで樺太アイヌの中でもっとも有力な家系であった。

以上のようにこれらの文書は、樺太の住民と清国の関係を如実に示す重要な資料であり、近年は中国でも注目され、日本の文献を引用する形で歴史論文の中で利用され始めている⁽²⁾。とはいえ、これらの文書中の嘉慶23年(1818)の漢文文書は、樺太の陶姓の氏族長が近年は「西散大国」(アイヌ語のシサムの転音で日本を指すと考えられている)と交際して朝貢を怠っていることをのべており、そのころ樺太における日本の影響が著しくなったことを示しているのは興味あることである⁽³⁾。

この文書群中の和文文書は、幕末における幕府の蝦夷地直轄時代に箱館奉行所がナヨロの惣乙名シトクレランおよびその子息カンチョマンテに与えた辞令類(辰九月の文書は明治元年の箱館府の辞令)である。そのほかこの文書を現地で見た幕吏、松前藩士、会津藩士らの書付を含んでいる。それらがこのように大切に保存されたのは、最上徳内の助言が忠実に守られたからであろう。なおこれらの文書は、1860年9月にナヨロを訪れたロシア地理学協会のFr. シュミット一行も見ているが⁽⁴⁾、紙面に付された鉛筆書きの数字やかすかに残るロシア文字は彼らが記入したものかもしれない。(秋月俊幸)

(注)

- (1)この日本語訳はかなりすぐれた訳で、池上二良教授によれば、用語の使い方などからみて清国人による漢訳を重訳したものではないかという。
- (2)関嘉録・王桂良・張錦堂「清代庫頁費雅喀人的戸籍与賞烏林制」(社会科学輯刊, 1981年第1期), pp. 85—87; 呂光天「明清之際黒龍江下游和庫頁島の少数民族」(社会科学輯刊, 1982年, 第6期), pp. 107—108
- (3)実際には、陶姓の氏族はギリヤーク人であったと思われるので、日本との関係は稀薄であった。
- (4)Beiträge zur Kenntniss der Russischen Reiches und der angrenzenden Länder Asiens, Bd. 52, S. 93 (St. Petersburg, 1868)

学術情報センターの情報検索サービスの開始について

文献検索の方法としてのオンライン情報検索は、迅速性、網羅性においてすぐれた検索法であり、今や広く普及・定着しつつあることは周知のとおりです。附属図書館では、この程従来からサービスしている JOIS, DIALOG に加えて学術情報センターの提供するデータベースの検索サービスを開始しました。

学術情報センターでは、「学術情報システムの内外で作成される様々な学術情報データベースを導入し、大学等の研究者の学術研究活動を支援」するために本年4月より情報検索サービス (NACSIS-IR) をはじめました。現在利用できるデータベースは表1のとおりです。まだ種類数、収録範囲とも少ないのですが、今後順次種類数を拡大するとともに、数値情報・画像情報などをも含む様々なデータベースの導入が予定されております。商用データベースに比べて利用料金が格安であることも魅力です。

NACSIS-IR は、研究者が研究室のオンライン端末から公衆回線を通じて、あるいは大型計算機センターを経由して直接学術情報センターと接続し利用することができますが、附属図書館でも代行検索サービスを行いますのでご利用下さい。

——— 申 込 方 法 ———

- 申 込 参考調査掛に備え付けの申込用紙に所定事項記入のうえ申込む。
 利用資格 校費払可の者に限る。
 利用時間 9時—16時30分 (月—金曜日) 昼休みは除く
 料 金 接続料50円/分 文献出力料13円/件 通信料
 詳しくは、参考調査掛 (内線2973) にお問い合わせ下さい。

表1 NACSIS-IR データベース

	データベース名	収録期間	データ件数	内 容
二 次 情 報 デ ー タ ベ ー ス	Life Sciences Collection	1985～	20万件	生命科学分野の文献情報
	MathSci	1985～	8万件	Mathematical Reviews 誌に対応する数学分野の文献情報
	COMPENDEX	1981～	55万件	Engineering Index 誌に対応する工学分野の文献情報
	Ei Engineering Meetings	1985～	20万件	工学分野の会議録論文の文献情報
	Harvard Business Review	1985～	250件	全文データベース
	ISTP & B	1985～	20万件	科学技術分野の会議録等論文の文献情報
	科学研究費補助金研究成果概要データベース	1985	2,800件	文部省科研費による研究成果報告の文献情報
	学位論文索引データベース	1985	5,000件	我が国の博士学位論文の索引データベース
M A R C	JPMARC	1985～	15万件	国立国会図書館作成の図書の書誌情報
	LCMARC (Books)	1985～	40万件	米国議会図書館作成の図書の書誌情報
	LCMARC (Serials)	1985～	30万件	米国議会図書館作成の雑誌の書誌情報
目 在 録 情 報 所 報	目録所在情報データベース (和雑誌)		100万件	学術雑誌総合目録和文編
	目録所在情報データベース (洋雑誌)		62万件	学術雑誌総合目録欧文編

◆ 会 議

第133回図書館委員会

く と き 昭和 62 年 5 月 27 日 (水)

く ところ 附 属 図 書 館 会 議 室

議 題

1. 昭和61年度決算について
2. 昭和63年度学内共同利用逐次刊行物等の検討について
3. 理系分館検討小委員会の設置について
4. 学術情報センターの情報検索サービス開始に伴う図書館の対応について
5. その他

第134回図書館委員会

く と き 昭和 62 年 7 月 9 日 (木)

く ところ 附 属 図 書 館 会 議 室

議 題

1. 昭和62年度予算配当 (案) について
2. その他

第135回図書館委員会

く と き 昭和 62 年 9 月 29 日 (火)

く ところ 附 属 図 書 館 会 議 室

議 題

1. 学内共同利用逐次刊行物等検討小委員会報告について
2. バックナンバーセンター (本館書庫内) の所蔵調査の結果について
3. 外国学術図書の購入について
4. その他

第92回教養分館委員会

く と き 昭和 62 年 7 月 16 日 (木)

く ところ 教 養 分 館 会 議 室

議 題

1. 昭和62年度図書予算配当 (案) について
2. 昭和62年度参考図書及び視聴覚資料の選定について
3. その他

図書担当掛長会議

く と き 昭和 62 年 6 月 9 日 (火)

く ところ 附 属 図 書 館 会 議 室

議 題

1. 会計検査院実地検査について

楡 蔭

2. その他

図書担当掛長会議

〈と き 昭和 62 年 9 月 3 日 (木)〉

〈と ころ 附 属 図 書 館 会 議 室〉

議 題

1. 外国学術図書の購入について

2. その他

図書担当掛長会議

〈と き 昭和 62 年 9 月 17 日 (木)〉

〈と ころ 附 属 図 書 館 会 議 室〉

議 題

1. バックナンバーセンター（本館書庫内）の所蔵調査の結果について

2. その他

第34回国立大学図書館協議会総会

本年度の国立大学図書館協議会総会は、関東地区の当番で群馬大学が当番館として、昭和62年7月1日、2日の両日にわたって開催された。参加者等は、96大学、250名で、文部省から、西尾学術情報課長、安達学術調査官、平井大学図書館係長が出席した。なお、議事等は、次のとおりである。

○ 協議事項

① 理事・監事の選出 ② 協議会会費の改定 ③ 国公立大学図書館協力委員会委員の選出 ④ 大学図書館国際連絡委員会委員の選出 ⑤ 調査研究班の設置 その他

○ 研究集会

テーマ 今後における学術雑誌の収集と利用について

① 東工大、山梨大

② 愛媛大、図書館情報大

③ 阪大、一橋大 からそれぞれ発表

○ 分科会

第1分科会（運営・サービス）

1. 遡及入力促進

2. 学術情報センターの目録システム運用上の問題点

3. 学術情報センターの「情報検索サービスの利用」

4. 学術情報システムネットワークの整備・拡充

5. 外国雑誌センター館における資料の収集等

第2分科会（予算・人事）

1. 図書購入費の増額

2. 電算化のための研修の充実

3. 目録遡及入力

4. 図書館の増改築の促進等

5. 学術情報システムに対応する職員の研修

○ 全体会議

各分科会のとりまとめ

第37回北海道地区大学図書館協議会総会

本年度の地区大学図書館協議会総会は、北海道東海大学の当番により、9月25日(金)、同大学を会場に開催された。22大学45名が出席し、慣例により当番館の北海道東海大学神山館長を議長に選出し、議事が進められた。なお、協議事項等は次のとおりである。

報告事項

1. 幹事館会議
2. 第30回北海道地区大学図書館職員研究集会
3. 各館界の動向
4. 昭和61年度協議会決算・同監査
5. 相互利用マニュアル作成委員会

協議事項

1. 東京理科大学長万部図書分館の協議会加盟について
2. 協議会の事業計画について
3. 昭和62年度協議会予算(案)について
4. 当番館(総会及び研究集会)の分担業務について
5. 研究集会要項の一部を改正する要項(案)について
6. 昭和64年度以降の総会及び研究集会の当番館について
7. 次期役員館の選出について
8. 北海道図書館連絡会議の加盟について
9. 次年度総会及び研究集会当番館等の確認について
10. その他

なお、第38回総会の当番館は、道都大学に、第31回研究集会の当番館は、北星学園大学に決定した。

第61次国立7大学附属図書館協議会

昭和62年度の第61次国立7大学附属図書館協議会は、昭和62年10月2日(金)北海道大学の当番で、札幌市において開催され、本館からは、大野館長、酒井事務部長及び似鳥、石黒の各課長が出席した。なお、議題等は、次のとおりである。

1. 図書館サービスと LAN について
2. NACSIS-IR の導入について
3. 学生用図書購入費配分基準について
4. 学術情報センターへの目録入力促進方について
5. 外国人留学生に対する学生用図書購入費の予算措置について
6. 視聴覚資料サービスの整備充実について
7. 大型計算機センター等との協調方策について
8. ILLシステムの開発促進について
9. 大学における国際交流において、図書館の果たすべき役割について

◆ 研 修

第30回北海道地区大学図書館職員研究集会

〈と き〉 昭和62年8月28日(金)〈

〈と ころ〉 札幌学院大学〉

本年度の研究集会は、当地区18大学130名と、加盟館以外の団体からオブザーバーとして14名の参加があった。当日は各参加者とも終始熱心に傾聴し、活発な質疑が交され、有意義かつ盛会裡に終了した。

○ 研究発表

司会 北星学園大学 近 藤 命

札幌医科大学 永 岡 茂

学外利用者への対応

札幌医科大学 清水 昭 子

ISSN について

北海道大学 松 野 とも子

○ 講 演

「これからの大学図書館」

図書館情報大学 教授 松 村 多美子

○ 事例報告 「図書館新築の事例」

北海学園大学 齊 藤 和 夫

北海道工業大学 五十嵐 武 義

北海道教育大学 谷 口 一 弘

「昭和62年度大学図書館職員長期研修」に参加して

諏訪田 義 美

今年で19回目を迎える本研修会は、7月20日から8月7日までの3週間にわたり、文部省と図書館情報大学との共催のもとに、図書館情報大学を中心として筑波大学図書館、同大学学術情報処理センター、東京大学総合図書館、同大学大型計算機センター、学術情報センターなど14会場で開催された。1週目と3週目は筑波地区、2週目は東京地区を会場として、講義、演習、見学、共同討議など多彩なプログラムで実施された。

この研究の目的は、「大学における教育・研究活動の急速な進展に伴い、大学図書館がその利用者に対して、学術情報を迅速かつ的確に供給することの重要性がますます高まってきている」という背景をもとに「大学図書館の情報提供体制を整備すると共に、係長を中心とする中堅職員に対し、学術情報に係わる諸情勢について最新の知識を教授し、職員の資質と能力の向上を図る」ことにあり、学術情報システム、オンラインネットワークに係わる講義が中心であった。

研修生は、すでにコンピューターが導入稼働あるいは計画中の大学の現場の職員で、国立36名、公立1名、私立7名の計44名(男性31名、女性13名)というこれまでにない大人数となり、主催者側の学術情報システムとうにかける意気込みを感じることができた。

講義内容は、(1)総論、(2)一次情報の整備と相互協力、(3)目録・所在情報の形成と大学図書館の電算化、(4)二次情報データベースの形成とネットワーク、(5)情報検索サービス、(6)その他(関連講義、共同研究討議、研修・見学)で、猛暑の中熱心に受講した。第1日目は、受付、

オリエンテーションに続き、図書館情報大学藤川附属図書館長の総論としての「大学図書館の在り方」の講義が行われた。

情報検索では、マニュアル検索、機械検索の両面にわたり、筑波大学、同大学学術情報処理センター、東京大学大型計算機センター、日本経済新聞社で実習が行われた。筑波大学図書館でのマニュアル検索では、2次資料の内容説明に続き、グループに分かれ指定された2次資料を用いて演習問題の検索実習が行われた。機械検索では、①筑波大学情報処理センターのオンライン情報検索システム「UTOPIA」を使用して書誌データベース、②東京大学大型計算機センターの全国共同利用としての学術情報検索システム「TOOL-IR/ORION」を利用して化学文献データベース検索システムであるCASデータベース、③日本経済新聞社では社会化学における情報システム「NEEDS」をそれぞれ検索実習し、それなりの成果を収めることができた。「UTOPIA」はすでに使用したことがあり、かつ、検索対象がMARC (JP, LC, UK) であったことも幸いし混乱することなく終了したが、残念なことに他のシステムは未熟な操作方法のためシステムの特徴を十分に理解する事なく終えてしまった。

情報検索サービスの最終目的が、検索によって必要となった1次資料を利用者へ提供することにあるとすれば、これをサポートする図書館での分担収集を含めた1次資料の収集体制と、書誌・所在情報の整備、並びに、これを運用するための図書館間相互協力のネットワークの必要性を強く感じずにはいられなかった。

上記会場以外として、高エネルギー物理学研究所、工業技術院地質調査所地質標本館、つくばインフォメーションセンター(筑波地区)、文部省、国立国会図書館、慶應義塾大学三田情報センター、電気通信科学館、国文学研究資料館、東京工業大学図書館(東京地区)の各施設で講義を受けたり、それぞれの施設のシステムを見学することができた。特に、東京工業大学図書館でのシステム見学では、分野別外国雑誌センター館としての外国雑誌の受付業務を本学の受付処理と比較しながら見ることができ非常に有意義であった。

全国各地から参加した研修生と、講義・見学、そして長い筑波の夜を通して、相互の親睦を深め、多くの友を得て無事に研修を終えることができたことは、大きな収穫であり喜びでもあった。

終わりにになりましたが、文部省、図書館情報大学、各施設ならびに各講師の皆様方には大変お世話になりました。この紙上をおかりしてお礼を申し上げます。

(医学部図書整理掛)

◆ 統 計

部 局 別 蔵 書 冊 数

(昭和62年 3 月31日現在)

部局 \ 区分	和 書	洋 書	合 計	備 考
附 属 図 書 館	435,423	310,637	746,060	法学部を含む
教 養 分 館	103,776	55,818	159,594	言語文化部を含む
文 学 部	81,583	97,896	179,479	
教 育 学 部	62,593	24,944	87,537	
法 学 部	(59,292)	(105,298)	(164,590)	附属図書館所蔵
経 済 学 部	53,076	41,897	94,793	
理 学 部	47,025	135,373	182,398	情報処理教育センター, 実験生物センター含む
医 学 部	79,751	98,718	178,469	附属病院, アイソトープ総合センター含む
歯 学 部	12,983	12,437	25,420	附属病院含む
薬 学 部	4,703	13,241	17,944	機器分析センター含む
工 学 部	168,235	135,859	304,094	
農 学 部	186,139	103,256	289,395	附属農場, 附属演習林含む
獣 医 学 部	9,655	19,173	28,828	
水 産 学 部	69,336	42,349	111,685	
教 養 部	15,855	8,140	23,995	
言 語 文 化 部	(14,933)	(44,309)	(59,242)	教養分館所蔵
環 境 科 学 研 究 科	8,559	3,856	12,415	
低 温 科 学 研 究 所	6,946	14,482	21,428	
応 用 電 気 研 究 所	5,155	14,848	20,003	
触 媒 研 究 所	2,987	10,024	13,011	
免 疫 科 学 研 究 所	1,412	5,776	7,188	
スラブ研究センター	1,395	9,613	11,008	
大型計算機センター	854	1,140	1,994	
事 務 局	1,824	156	1,980	保健管理センター含む
医療技術短期大学部	15,423	2,293	17,716	
計	1,374,688	1,161,926	2,536,614	

昭和61年度 部局別図書・雑誌受入冊（種類）数

区 分 部 局	図 書							雑 誌						
	和 書			洋 書			計	和 書			洋 書			計
	購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他		購入	寄贈	その他	購入	寄贈	その他	
附 属 図 書 館	3,333	1,212	[303] 3,349	3,175	244	[2,353] 4,360	[2,656] 15,673	238	1,528	—	376	329	—	2,471
教 養 分 館	3,231	31	96	3,292	88	126	6,864	231	17	—	208	—	—	456
文 学 部	2,350	275	213	5,897	391	78	9,204	119	909	2	629	7	—	1,666
教 育 学 部	2,797	52	653	610	7	351	4,470	255	509	7	193	2	1	967
法 学 部	(905)	(68)	(1,077)	(2,423)	(168)	(950)	(5,591)	(128)	(271)	—	(314)	(28)	—	(741)
経 済 学 部	1,877	230	991	1,961	41	497	5,597	159	686	1	245	54	1	1,146
理 学 部	504	57	199	878	203	2,154	3,995	105	341	2	739	333	18	1,538
医 学 部	596	51	462	641	26	1,234	3,010	333	449	—	802	66	1	1,651
歯 学 部	415	18	78	183	—	568	1,262	127	124	—	209	30	—	490
薬 学 部	109	—	101	69	2	457	738	32	47	—	117	6	—	202
工 学 部	2,114	93	[9] 1,228	1,119	7	1,956 6,517	[9] 6,517	340	912	—	816	39	—	2,107
農 学 部	2,145	100	1,044	551	1	[1] 1,047	[1] 4,888	634	908	50	598	220	3	2,413
獣 医 学 部	153	7	90	146	3	305	704	33	180	—	143	144	1	501
水 産 学 部	767	27	430	140	7	916	2,287	307	653	2	264	314	1	1,541
教 養 部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
言 語 文 化 部	(714)	(6)	—	(3,114)	(86)	(92)	(4,012)	(61)	—	—	(198)	—	—	(259)
環 境 科 学 研 究 科	446	—	261	146	—	115	968	38	81	1	117	35	1	273
低 温 科 学 研 究 所	147	8	[167] 464	55	—	[8] 484	[175] 1,158	29	287	2	90	184	1	593
応 用 電 気 研 究 所	122	—	25	152	—	507	806	30	120	1	130	10	—	291
触 媒 研 究 所	22	—	16	106	—	232	376	14	7	—	41	24	—	86
免 疫 科 学 研 究 所	22	—	—	53	—	210	285	12	102	1	47	—	—	162
スラブ研究センター	356	2	26	1,962	77	336	2,759	5	142	1	130	56	1	335
大型計算機センター	12	—	—	54	—	—	66	35	33	2	52	—	—	122
事 務 局	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
学 生 部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医療技術短期大学部	929	—	[629] 805	113	—	[27] 82	[656] 1,929	129	129	—	44	—	—	302
合 計	22,447	2,163	10,531	21,303	1,097	16,015	73,556	3,205	8,164	72	5,990	1,853	29	19,313

図書のうち、附属図書館、工学部、農学部、低温研、医療技術短期大学部の上段〔 〕書は学内管理換により増となった
分で内数である。従って全学の受入冊数の合計数は学内管理換分を除いたものである。

昭和61年度 附属図書館利用統計

閲覧室名 利用部局等	書庫出納カウンター		開架図書室 館外貸出	語 学 演 習 室	参 考 図 書 室	北 方 資 料 室	合 計
	館内閲覧	館外貸出					
開館日数	292日	292日	292日	292日	292日	292日	
文 学 部	297人	888人	2,615人	51人	1,629	374人	
教 育 学 部	38	178	442	5	184	75	
法 学 部	593	1,088	3,115	82	579	36	
経 済 学 部	39	52	1,061	40	519	24	
理 学 部	44	35	2,942	32	147	92	
医 学 部	6	2	322	14	30	21	
歯 学 部	5	1	229	1	65	2	
薬 学 部	1	6	433	—	18	2	
工 学 部	16	28	1,171	25	112	111	
農 学 部	12	15	866	65	135	73	
獣 医 学 部	2	—	100	—	36	7	
水 産 学 部	—	—	1	—	2	9	
教 養 部	175	151	4,097	93	518	205	
各 研 究 所	—	—	—	—	199	34	
医 療 技 術 部	8	2	371	4	64	3	
短 期 大 学							
教 官	131	1,989	601	102			
院 生	111	2,486	1,815	164			
職 員	74	156	758	2			
学 外 者	467	297	101	—	550	913	
利 用 者 合 計	2,019	7,374	21,040	680	4,787	1,981	37,881人
利 用 冊 数	5,004	19,417	36,390	685巻	341 ¹⁾	1,209 ²⁾	62,361冊 685巻

- 注 1) 国連資料, OECD 資料, EC 資料, 図書館学資料のみ (参考図書は貸出ししない)
 2) 館外貸出冊数 (室内利用は含まず)
 3) 参考図書室については, 教官・職員・学生こみの人数
 4) 北方資料室については, 教官・職員・学生こみの人数

昭和61年度 文献複写・相互利用統計

I. 国内：附属図書館相互利用掛を経由して学外へ依頼した件数 (国立・私立とも)

申込部局	附 属 図 書 館	文学部	法学部	教 育 部	理学部	薬学部	農学部	獣 医 部	水 産 部	教養部
件 数	10	336	418	1	5	3	15	1	1	3
申込部局	言 語 文化 部	環境研	応電研	触媒研	免疫研	スラブ	実 験 生物セ	医 療 短 大		合 計
件 数	94	229	62	15	17	10	5	87		1,312

II. 国内： 新法式（国立大学等図書館相互における文献複写）で各部局図書掛が受付・依頼を行った件数

部 局	附 属 図書館	文	教	経	理	医	歯	薬	工	農	獣医	水産	低温	合計
受 付	2,086	177	148	99	—	1,581	—	161	1,226	1,275	507	424	120	7,804
依 頼	643	354	32	152	509	825	81	205	488	177	135	235	57	3,893

III. 国外への依頼件数（参考調査掛）

英	米	西 独	仏	ソ 連	オース トリア	カナダ	その他	合 計
348	252	44	15	8	8	4	14	693

IV. 図書館間相互貸借（相互利用掛） ○他館への貸出347冊 他館からの借用181冊

V. 附属図書館マイクロ電子・複写業務実績（館内分を除く）（相互利用掛）

複写室 申込者	件 数 ^(注) (件)	複写論文 点 数 (点)	処 理 枚 数 ・ コ マ 数					
			総 数	内 訳				
				電子複写 (枚)	マイクロ フィルム (コマ)	マイクロ フィッシュ (枚)	引伸焼付 (枚)	リーダー プリンター (枚)
学 内 者	500	1,002	20,602	2,883	1,066	—	4	16,649
学 外 者	3,361	4,825	59,754	58,798	78	—	—	878
合 計	3,861	5,827	80,356	61,681	1,144	—	4	17,527

注）件数は申込延人数と同じ。（複写不能分を含みます）

VI. 参考質問（参考調査掛）

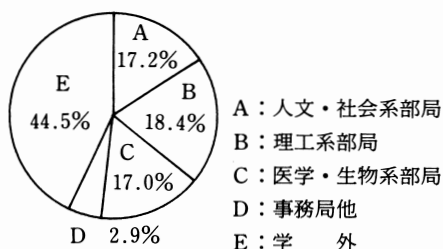
1. 部局別質問件数

文 学	教 育	法 学	経 済	理 学	医 学	歯 学	薬 学	工 学	農 学	獣 医	水 産
301	63	177	118	365	217	53	102	346	205	86	35
教 養	言 語	環 境	低 温	応 電	触 媒	免 研	スラブ	医 短	事・他	学 外	合 計
183	30	78	45	56	39	21	52	52	146	2,221	4,991

2. 質問内容別件数

文献所在調査	2,882
書 誌 調 査	284
事 項 調 査	168
利 用 指 導	1,500
情 報 検 索	157
合 計	4,991

3. 質問分野別比率



昭和61年度 教養分館利用統計

(開館日数292日)

閲覧室等名 利用部局等	開 架 図 書 室		語 学 演 習 室		ビデオ視聴室	
	館 外 貸 出					
文 学 部	1,516冊	852人	23巻	23人	73巻	50人
教 育 学 部	184	105	1	1	11	7
法 学 部	460	273	25	22	26	18
経 済 学 部	399	257	11	11	29	25
理 学 部	2,793	1,673	4	4	21	21
医 学 部	406	267	15	15	85	77
歯 学 部	188	102	0	0	0	0
薬 学 部	204	128	1	1	3	3
工 学 部	2,013	1,228	28	28	66	61
農 学 部	304	166	5	4	15	11
獣 医 学 部	127	81	4	4	1	1
水 産 学 部	2	1	0	0	3	1
教 養 部	35,215	21,363	546	488	1,790	1,562
医療短期大学部	277	164	1	1	8	7
教 官	2,694	267	15	11	62	27
院 生	794	466	125	123	111	94
職 員	3,868	789	1	1	12	11
学 外 者	41	29	9	9	1	1
合 計	51,485	28,211	814	746	2,317	1,977

昭和61年度 教養分館分類別館外貸出統計

類別	0	1	2	3	4	5	6
冊数	866	3,510	428	4,429	3,137	18,931	1,689
類別	7	8	9	文庫新書	雑誌		合計
冊数	944	5,346	4,325	7,648	232		51,485

◆電算化ニュース

電算化以前の所蔵図書データの遡及入力を開始

本学の図書館システムは昨年4月以来順調に稼働を続け、受入資料も61年度受入分以降は閲覧用目録カードを作成せず、端末を利用した検索が可能となっている。このため、電算化以前に受入れられた約240万冊（雑誌を除くと約170万冊）の蔵書データの遡及入力が図書館委員会などで問題になっていたが、今後の遡及入力のテストのため本館内に整理・閲覧・学術情報課から各1名、計3名からなる遡及入力班が結成された。班は、6月からテスト入力を開始する一方、このために採用する非常勤職員がいかに能率よく入力できるかの検討と準備を行った。

さいわい、関係者のご協力により8月1日から6時間非常勤職員として15名を採用することができ、直ちにケース2による学情センターと北大DBへの入力作業に入ることができた。しかし、採用された非常勤職員は殆どが図書業務の経験がなく、このため和書の簡単な単行書誌から入力を始め、3名の職員がつききりで教育しつつ集合書誌・分冊等の複雑なケースに移行して、今年度内72,000冊を目標に入力を続けている。

現在、法学部関係和・洋書、本館開架和書、北大DBにのみ登録され学情センターには未登録分の登録等をつづけており、9月末現在約30,000冊が遡及入力されている。

部 会 報 告

システム管理部会

第1回 昭和62年6月25日(木)

1. 3部会一巡開催後システム管理に関わる問題を討議する。
2. 北大DB一斉点検作業を8月17～21日に行う。
 - ・検索の中止については図書館委員会の了解をとる。
3. 北海道教育大学と接続する可能性がある。
 - ・端末負荷テストが必要になる。
 - ・各部会へオブザーバーとして参加する。
4. 遡及入力の準備を行っている。
5. 学術情報センターシステム変更の可能性がある。
6. システムの業務使用（職員）時間帯の拡大を試行する。（9月）
7. 運用の手引きの作成について
 - ・各部会のスケジュール管理で年度内を目標に作成する。
 - ・書式は統一する。
 - ・「蔵書検索」については「マニュアルなしで検索できるシステム」を徹底すべく、画面メッセージを改良する方法とする。

図書情報システム運用部会

昭和62年度第1回 昭和62年5月14日(木)

1. 議題
 - (1) 昭和62年度図書情報部会のメンバーについて
 - (2) システム管理部会への推薦者について
 - (3) 目標データベース中のミスデータの修正・削除について

楡 蔭

2. 報告事項

- (1) 学術情報センター「目録システム利用マニュアル登録編」の配布について
- (2) 目録に関する質問および意見の取り扱いについて

昭和62年度第2回 昭和62年7月16日(休)

1. 議題

- (1) 北大DB一斉点検について
- (2) 学情システムの改善について

2. 報告事項

- (1) 遡及入力の実状および「直通型」の内容について
- (2) NCIDのない単行書誌のNCへの登録を「遡及班」で行う予定なので、NCIDの北大DBへの付与作業は入力者に依頼したい旨学情課長から要請があった。

雑誌情報システム運用部会

昭和62年度第1回 昭和62年5月21日(休)

1. 昭和62年度雑誌情報部会のメンバーについて
2. システム管理部会への推薦者について
3. 運用の手引きについて
4. 寄贈誌の分担収集体制と重複雑誌リストの取り扱いについて
5. 冊子体目録の作成について

昭和62年度第2回 昭和62年8月26日(水)

1. 北大所蔵雑誌目録について
2. 運用の手引きについて
3. 学術情報センターとの接続(雑誌のケース2による接続)について

サービスシステム運用部会

昭和62年度第1回 昭和62年5月26日(火)

1. サービス部会の運用について
2. システム管理部会の委員2名の選出について

昭和62年度第2回 昭和62年9月25日(金)

1. NACSIS-IRの利用について
2. CLARK蔵書検索マニュアルについて
3. その他

電 算 化 記 録 (5)

昭和62年5月～9月

年 月 日	事 項	年 月 日	事 項
62.5.1	新たに应用電気研が学術情報センターと接続	62.7.14	遡及入力のため旧研修室の端末を新研修室と学情課事務室に移設
62.5.8	第1回遡及入力打合わせ会議	62.7.16	第2回新図書情報システム運用部会
62.5.11	異動による業務分担変更者を対象に雑誌システム実務講習会	62.7.17	CJK 学習会
～13		62.7.20	プログラム講習会開始(受講者5名)
62.5.12	「北海道大学図書館システム」の構築に寄与された日本電気に感謝状贈呈	〃	日本電気との定例打合せ会議(第27回)
62.5.13	第1回図書情報システム運用部会	62.7.27	端末負荷予備テスト
62.5.18	本年度新規採用図書系職員を対象に端末基本操作およびカナタイプ講習会	62.7.29	第1回北教大との接続に関する定期協議会
～20		62.8.1	遡及入力のため6時間非常勤職員16名採用、入力作業開始
62.5.21	第1回雑誌情報システム運用部会	62.8.3	大計センターで学内 LAN について
62.5.25	異動による業務分担変更者を対象に目録システム研修	～7	メーカー側からのヒアリング(説明会)、学情課長と情報処理掛長が交替で出席
62.5.26	第1回サービスシステム運用部会	62.8.6	日本電気と、UIP の接続と CPU の負荷対策について協議
62.5.27	第133回図書館委員会。学術情報センターの情報検索サービス開始に伴う図書館の対応について説明	62.8.14	UIP 接続台数を30台から40台へ増設の作業
62.5.28	第2回遡及入力打合わせ会議	62.8.17	端末100台を稼働させての一斉負荷テスト
62.5.29	本省の西尾学術情報課長来館、北大システムを見学	62.8.19	第2回北教大との接続に関する定期協議会
62.6.1	各課より1名、計3名による遡及入力班発足	62.8.26	第2回雑誌情報システム運用部会
62.6.12	遡及入力班と各課関係者が集まり、登録作業について詳細打合わせ	62.9.4	日本電気との定例打合せ会議(第28回)
62.6.23	第3回遡及入力打合せ会議	〃	第3回北教大との接続に関する定期協議会
62.6.25	第1回システム管理部会	62.9.11	学情情報検索サービス(NACISIS-IR)との接続テスト
62.6.26	第4回遡及入力打合せ会議	62.9.25	第2回サービスシステム運用部会
62.6.29	NECよりUIP直結型のプログラムをリリース		
62.7.10	UIP直結型取込みについて、遡及入力班と関係者により詳細打合せ		

データベース登録件数

(昭和62年10月6日現在)

1. 北大DB登録雑誌書誌件数

和雑誌 14,203件	洋雑誌 13,602件	計 27,805件
-------------	-------------	-----------

2. 北大DB登録図書冊数

	図書 (入力冊数)			備 考
	和	洋	計	
附 属 図 書 館	29,642	16,976	46,618	法学部, 大計センターを含む
教 養 分 館	4,800	5,142	9,942	教養部, 言語文化部を含む
文 学 部	3,629	4,943	8,572	
教 育 学 部	3,406	450	3,856	
経 済 学 部	2,301	1,697	3,998	
理 学 部	695	1,810	2,505	情報処理セ, 実験生物セ, 遺伝子セを含む
医 学 部	908	1,042	1,950	附属病院を含む
歯 学 部	345	215	560	〃
薬 学 部	212	92	304	
工 学 部	2,156	1,487	3,643	
農 学 部	2,441	705	3,146	演習林, 農場を含む
獣 医 学 部	221	230	451	
水 産 学 部	1,041	207	1,248	
低 温 研	377	94	471	
応 電 研	4	1	5	
触 媒 研	24	263	287	
免 疫 研	21	38	59	
ス ラ プ 研	258	688	946	
環境科学研究科	639	142	781	
医療技術短大	1,324	206	1,530	
計	54,444	36,428	90,872	

◆ 受 贈 図 書

本学教官著作物

〔本 館〕

○法 学 部

福 永 有 利(共著) 民事の訴訟～ある事件の発生から解決まで～ 筑摩書房 1987

○経 済 学 部

吉 田 文 和 マルクス機械論の形成 北海道大学図書刊行会 1987

○理 学 部

大 野 公 男(共訳) 新しい量子化学 上 Attila Szabo 等著 東京大学出版会 1987

○工 学 部

大 橋 弘 士(共訳) 放射性廃棄物処分の基礎～地球化学的アプローチ～ D.G.ブルッキンス著 現代工学社 1987

〔教養分館〕

大 野 公 男(共訳) 新しい量子化学 上 Attila Szabo 等著 東京大学出版会 1987

◇人事往来◇

- 図書館委員会委員
 - 山村悦夫 (環境科学研究科教授) 62.5.28(再任)
 - 古矢 旬 (法学部助教授) 62.7.1(//)
- 退職
 - 今西澄子 閲覧課閲覧掛 62.6.30
 - 佐々木 由佳 // // 62.8.15
 - 志 釜 由美子 // 教養分館閲覧掛 62.9.25
- 採用
 - 北川 真己子 閲覧課閲覧掛 62.7.1
 - 坂口 千 夏 // // 62.8.17
 - 渡辺 純 子 // 教養分館閲覧掛 62.10.1
- 転任・配置換
 - 築 館 キヨミ 農学部図書掛 (農学部附属酪農科学研究施設) 62.4.1
 - 小笠原 敏 明 豊橋科学技術大学教務部図書課学術情報係長 (整理課受入掛) 62.9.1
 - 山 田 常 雄 東京工業大学附属図書館整理課長 (学術情報課長) 62.10.1
 - 益 田 義 孝 学術情報課長 (京都大学附属図書館閲覧課専門員) 62.10.1
 - 柴 田 仁 整理課受入掛 (旭川医科大学総務部会計課用度第二係) 62.10.1

訃 報

本館整理課受入掛文部事務官清水弘氏 (享年42歳) には、病氣療養中のところ、昭和62年7月22日、急性心不全のため逝去されました。

ここに慎んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和39年5月経済学部採用され、その後、文学部、工学部を経て昭和61年5月整理課受入掛に配置換となったが、この間一貫して図書業務に携わり、13年余にわたって、本学のため献身的に職務に精励されました。

北海道大学附属図書館報 「楡蔭」 (通巻73号)

1987年10月31日 発行 発行人 酒 井 豊

編集委員 達 昭二(長)・久原秀志(図)・山口國雄(図)・高砂 慶(図)・片桐和子(文)
宇野洋子(理)・伊藤秀治(獣医)

発行所 北海道大学附属図書館 札幌市北区北8条西5丁目 電話代表716-2111 (2967)

印刷所 ㈱共同印刷 札幌市中央区北3条東5丁目 電話代表241-9341